

鐘山即事（王安石）

澗水声無く竹を繞つて流る

澗水無聲遶竹流
竹西花草露春柔
茅簷相對坐終日
一鳥不鳴山更幽

解説 隱逸生活の高尚な情趣を詠じた詩。

竹西の花草 春柔を露わす

語釈 ※鐘山||金陵すなわち今の南京の東北にある名山。
※即事||その場の見たまを詠ずること。 ※澗水||谷間を流れる水。 ※露||あらわす。 ※春柔||若草のやわらかいこと。
※茅管||かやぶきの軒。 ※相對||鍾山に向かいあうのである。
※終日||一日中。

茅簷相對して坐すること 終日

通釈 谷川の水は音もなく竹林をめぐって流れている。その竹林の西には花や草が春の柔らかさをあらわしている。自分がかやぶきの軒の下に座つて、一日中、鍾山に向かい合っていると、一羽の鳥の鳴き声も聞こえず、山はいよいよ静かである。

一鳥鳴かず山更に幽なり